

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

台湾、先行指標に底打ちの兆し(Asia Weekly (6/20~6/24))

~アジア新興国は底堅い景気が確認されている~

発表日: 2011年6月28日(火)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/20 (月)	(タイ) 5月輸出 (前年比)	+17.6%	+15.6%	+24.6%
	5月輸入 (前年比)	+33.8%	+26.6%	+27.9%
	(台湾) 5月輸出受注 (前年比)	+11.53%	+9.45%	+10.14%
6/21 (火)	(香港) 5月消費者物価 (前年比)	+5.2%	+5.0%	+4.6%
6/22 (水)	(台湾) 5月失業率 (季調済)	4.41%	4.30%	4.35%
6/23 (木)	(シンガポール) 5月消費者物価 (前年比)	+4.5%	+4.1%	+4.5%
	(台湾) 5月商業販売額 (前年比)	+3.80%	+4.20%	+4.87%
	5月鉱工業生産 (前年比)	+7.82%	+5.90%	+7.18%
6/24 (金)	(シンガポール) 5月鉱工業生産 (前年比)	▲17.5%	▲9.3%	▲9.5%
	(前月比/季調済)	▲3.8%	+5.0%	▲18.7%
	(マレーシア) 5月消費者物価 (前年比)	+3.3%	+3.3%	+3.2%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【台湾】 ~足下の生産や消費は頭打ちしているが、先行指標に底打ちの兆しも確認される~

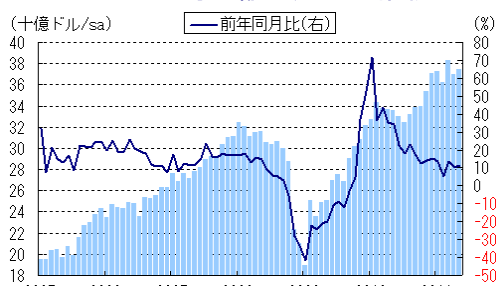
20日に発表された5月の輸出受注は前年同月比+11.53%となり、前月(同+10.14%)から伸びが加速した。前月比も2ヶ月ぶりに増加に転じており、東日本大震災による部材調達問題で落ち込んだ電気機械や輸送用機械が回復している。欧米先進国向けのみならずアジア向けも堅調に推移しており、先行きも底堅さが見込まれよう。

22日に発表された5月の失業率は4.41%となり、21ヶ月ぶりに悪化に転じた。雇用者数は前月比+0.1万人と8ヶ月連続で増加しているが、失業者数も同+0.8万人と20ヶ月ぶりの増加となっており、雇用の改善に陰りが出ている。これは中国経済の減速懸念や、東日本大震災による部材調達不足などで生産が下押しされたことが影響しているが、先行指標である輸出受注に底打ちの兆候が確認されていることから、先行きの雇用は底堅さが見込まれよう。

23日に発表された5月の商業販売額は前年同月比+3.80%となり前月(同+4.87%)から減速したが、前月比は+0.04%と前月(同▲0.70%)からわずかに増加。卸売売上高も同+0.58%と前月(同▲1.14%)から増加したものの、雇用・所得環境の悪化や物価上昇を反映して小売売上高は同▲1.54%と減少した。

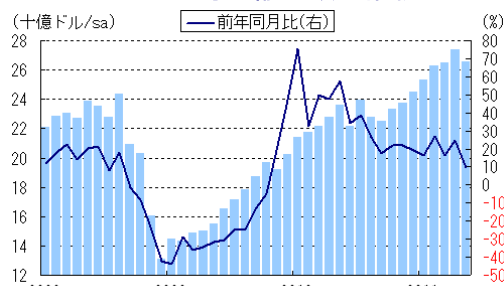
同日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比+7.82%と、前月(同+7.18%)から加速した。しかし、前月比は▲0.67%と前月(同▲3.51%)から減少幅は縮小したものの4ヶ月連続で減少しており、世界経済の減速による輸出低迷や、東日本大震災による部材調達問題、水不足による工業用水の取水制限などが影響した。なお、先行指数に底打ちの兆しが出ているほか、部材供給も予想以上の回復が進んでいることから、生産は早晚底打ちすると見込まれる。

図1 台湾 輸出受注の推移



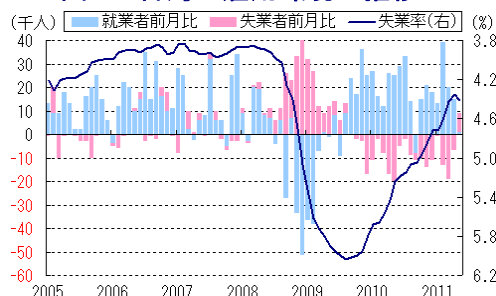
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 台湾 輸出額の推移



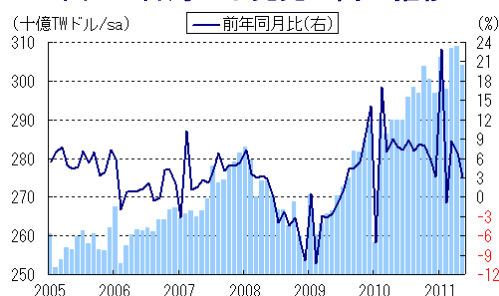
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 台湾 雇用環境の推移



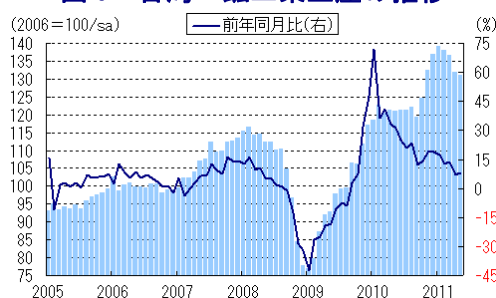
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 台湾 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 台湾 鉱工業生産の推移



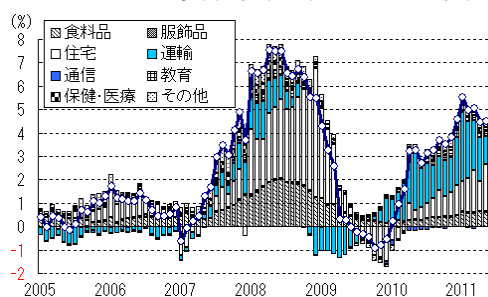
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[シンガポール] ～物価上昇圧力は熾り、来月の定例会合においても引き締め姿勢は続く見通し～

23日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+4.5%と前月から横這いとなった。しかし、前月比は+0.65%と前月(同+0.01%)から加速。国際商品市況の調整を反映して食料品や運輸関連の物価上昇に一服感はあるものの、住宅価格の上昇が加速したほか、堅調な雇用を反映してサービス価格も上昇するなど、コア物価が加速している。金融当局は実質的なSGドルの切り上げ容認による金融引き締めを進めているが、しばらくは物価上昇圧力が熾ると予想されることから、来月10日の定例会合においては金融引き締めが堅持されよう。

24日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比▲17.5%と、前月(同▲9.5%)から減速した。前月比も▲3.8%と前月(同▲18.7%)から2ヶ月連続で減少。分野別では主要産業である化学・医薬品関連が前月比▲15.8%と前月(同▲36.2%)に続いて大きく減少しており、米国をはじめとする先進国景気の先行き不透明感を反映している。しかしながら、化学・医薬品を除くと前月比+2.2%と前月(同▲6.3%)から増加に転じており、東日本大震災による部材調達問題やアジア域内の貿易量縮小に解消の目途が立っていることが確認された。当面は先進国景気の停滞が生産の重石になると見込まれるが、底堅さは期待されよう。

図6 SG 消費者物価(前年比)の推移



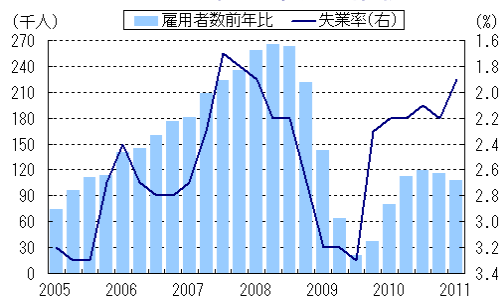
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 SG 為替相場の推移



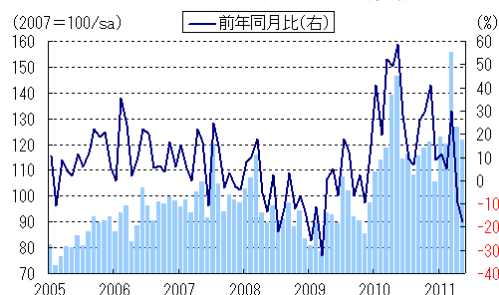
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 SG 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 SG 鉱工業生産の推移

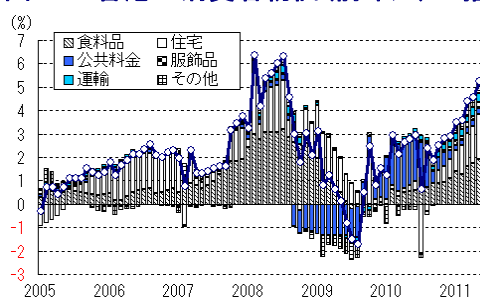


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港] ～食料品や不動産価格の押し上げにより、インフレ率は約3年ぶりの高水準に～

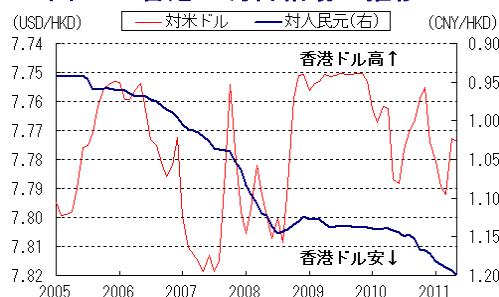
21日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+5.2%となり、前月(同+4.6%)から加速して34ヶ月ぶりの高い伸び率となった。前月比も+0.76%と前月(同+0.48%)から加速しており、食料品や住宅価格の上昇が物価を押し上げている。通貨香港ドルはカレンシーボード制を採用しており、実質的な米ドルとのペッグ状態にあることから、対人民元相場は安値で推移しており、食料品を中心に輸入物価の上昇を招いている。また、年明け以降の中国本土の金融引き締めにより、これまで高額物件を中心に不動産価格に頭打ちの兆しが出ていたが、足下では再び騰勢を強めている。さらに中国本土の景気拡大を背景とする雇用・所得環境の改善によりサービス価格にも上昇圧力が高まっているが、同国は独自の金融調節手段を有していないことから、今後は難しい政策の舵取りが迫られよう。

図10 香港 消費者物価(前年比)の推移



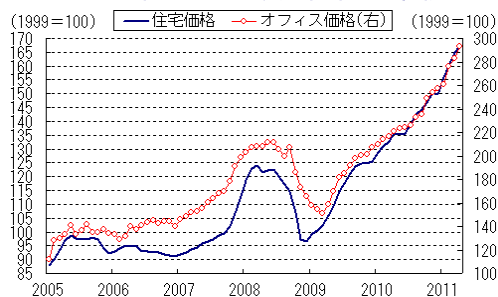
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図11 香港 為替相場の推移



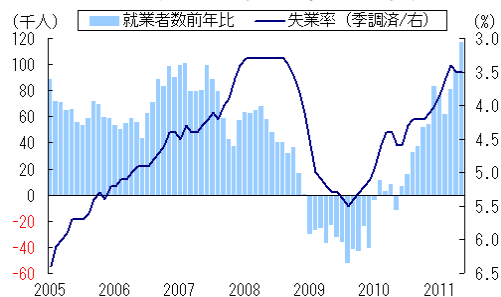
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図12 香港 不動産価格の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図13 香港 雇用環境の推移

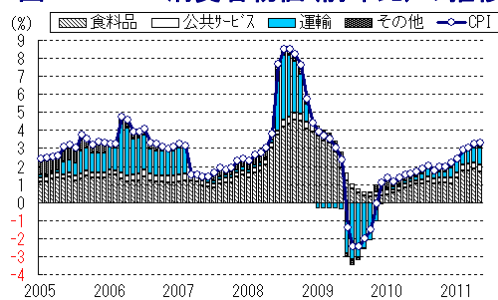


(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ~食料品価格の上昇は一服するも雇用改善を背景にサービス価格は上昇。追加利上げを予想~

24日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+3.3%となり、前月(同+3.2%)から加速した。前月比も+0.29%と前月(同+0.20%)から加速。食料品価格の上昇は一服しているものの、原油価格の高止まりによりエネルギー価格は上昇しており、雇用・所得環境の改善を背景にサービス価格も上昇するなど物価上昇圧力は高まっている。リング高は輸入物価の上昇を緩和してきたが、足下では海外投資家のリスクマインド悪化でリング高圧力は弱まりつつある。来月7日には定例の金融政策委員会が予定されているが、2回連続の利上げ実施で金融引き締めを進めると予想する。

図14 MY 消費者物価(前年比)の推移



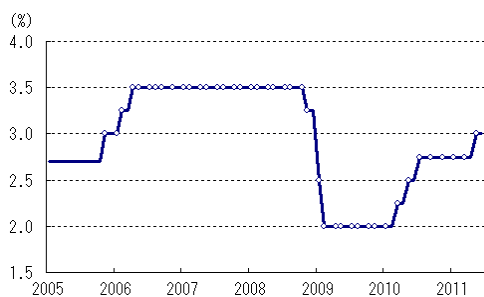
(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図15 MY 為替相場(対米ドル)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図16 MY 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

以上